



津南中等教育学校 同窓会報

第1号
発行者
津南中等教育学校
同窓会
TEL.765-2062

「同窓会の発展を祈る」



津南中等教育学校校長
吉原 満

創立7年目にして、第1期生によって同窓会が記念すべきスタートを切り、今後新たな伝統が築かれていくことを大変うれしく感じています。

先日8月13日、第1回同窓会総会に参加させていただきました。私は今年度、津南中等教育学校の校長となりましたので、第1期生とは初対面でした。本校のパイオニアとして幾多の苦難を乗り越え、輝かしい実績を築いてくれた1期生と会えることに胸が高鳴りました。1期生の皆さんは、放鳥されたばかりのトキのように初々しく、明るい和やかさに満ちていました。このよい雰囲気は次々とつなげ、同窓会を活性化させていって欲しいと思います。

同窓会の意義は3つあります。
1つはネットワークです（横のつながり）。人と人とのつながりは、一人では解決できないことを解決してくれ、多くのものを生み出します。同窓生と会うだけで、理屈抜きでわかりあえる部分があります。同じ（あるいは、似た）時を過ごしたと言いますが、ゼロからの説明を不要にするからでしょう。

2つめは、先輩・後輩のパイプです（縦

のつながり）。在校生は、社会に出たときの自分の未来を先輩の後ろ姿に見いだし、卒業生は、自分のルーツを先輩の姿の中に見ることが出来ます。もちろん別々の人生ですが、1つの学校を通り抜けたと言うことで共通点も多く、それぞれ自分の未来と過去を確認したり、助けあうことができるのです。

3つめは、歴史の感覚です。自分の人生と学校の歩みを重ね、大きな時間の流れを感じる事ができます。卒業生たちが出るたびに毎年1つずつ年輪を重ね、いつしか伝統はゆるく鎖の輪でつながった壮大な歴史となります。それは一人の人間の生を超えて、大樹となっていくことでしょう。

大樹の育つていく姿を想い、同窓生の皆さんと次に会える日を楽しみにしています。

「秋の夜長に」



同窓会長
金澤 朋紀

若がいる。年は十八。血の気の多い時期だ。彼は毎日へろへろになるまで勉強に励んでいる。日付が変わるころ、一日の業を成し終えてベッドに倒れ込む。文字通り、ボタンキユー。変わらぬ毎日である。ある秋の夜、いつもと違って彼はなかなか寝付けないでいた。考え事をしていらしい。内なる自分に問いかける。「毎日毎日同じ日々の繰り返し。ただ月日だけが過ぎてゆく。自分の進んでいる道は、はたして正しい道なのか？」

世間一般では、十代〜二十代前半を青春と書いて特に「青春」と呼びます。この時期をすでに過ごした大人達の体験記によれば、「人生の最盛期」だそうです。それ

では、と、当の私たち若者は自問します。そのウワサの青春とやら、自分は満喫できているのか。充実した日々もないではないが、毎日ではない。たとえば、今この瞬間やっていることに意味はあるのか。限られた貴重な時間を無駄にしてはいないか。ここまできて、私は人生の大先輩がいつの日にか言っていたことを思い出します。

「意味ではなく、意志」を問え。」
自分がやっていることに意味・価値を見つかけようとするとき、まずは心に問う。そこにおまえの意志はあるのか、と。意味があるが無かるうが、関係ない。やりたいことをやりたいだけやってみる。内的エンジンに火が着いたら、意志という名のハンドルをしっかりと握って、思い切りアクセルを踏み込んで、全速力の自分をしっかりと操縦する。ガソリンの切れるまでは、力の限り進む。切れたらスタンドで給油し、また進む。好きなことを好きなだけやる。これがウワサの青春とやらを満喫するための一つの心構えだと私は考えます。

今春、津南中等教育学校を卒業した1期生は、豊かな自然溢れる津南の地で六年間かけて培った確固たるBackboneと、そして自らの「意志」をもって、各地に散っていきました。それぞれの地で、大いに活躍していることでしょう。同時に発足した同窓会は、大変お世話になった母校に対し、その発展をささやかながらも後押ししていきます。

先日の総会には、多くの会員の皆様にご参加いただき、大変ありがとうございました。今後も、同窓会の活動へのご理解とご協力をお願い申し上げます。
「自分の決めた道だ。正しいも、正しくないもない。ここには意志がある。この道をズンズン進んでいくことが、今僕のすべきことだ。」自問自答の末、納得に行き着いた彼は、今日も深い眠りについたらよかった。

第二回同窓会総会

滋野 英美子

2012年8月13日(月)に津南中等教育学校第一回同窓会総会が、盛大に開催されました。会場は、卒業生の皆様が未成年ということで学校のランチルームとなりました。今回、第一回にもかかわらず、44名もの卒業生と先生方に出席していただきました。ほんの5カ月前に卒業したばかりでしたが、皆様のお元気な顔を拝見することができ、とてもうれしく思いました。

さて、同窓会ですが、開会の辞から始まり、吉原満校長先生よりご挨拶をいただきました。今回残念ながら欠席した金澤明紀同窓会長に代わり、私、滋野英美子が挨拶をさせていただきました。その後は歓談を楽しみ久しぶりに顔を合わせた級友との昔話や、お世話になった先生方とのお話に、花が咲いたことと思います。続いて、一人一人の近況を発表し合いました。それぞれがどのような道を歩み始めたかを知る、良い機会になったと思います。1時間半という、とても短い時間の会でしたが、お開きとなりました。予定していた会計報告、事業報告等は次回以降となります。今回、初めての同窓会ということで、まだまだ至らぬ点があり、ご迷惑をおかけしました。今回、都合等で参加頂けなかった方は、来年は是非とも仲間を誘ってご参加ください。最後になりましたが今回、多大なご協力を頂きました方々にお礼申し上げます。



大学に入って思うこと

遠田 早

大学に入学して早くも五ヶ月が過ぎました。初めての誰一人として知り合いのいない環境に期待と、それをほるかに上回る不安を胸に、大学に通ったことが、今では懐かしく思えます。九〇分の講義、大講義室での講義、学食、息もできないほどの満員電車での行き帰り、初めてのアルバイトなど、毎日が新鮮で、毎日が疲労との戦いでした。

そんな大学生活にも、関東での生活にも徐々に慣れてきました。それと同時に、自分が自由であることが嬉しく思えてきました。大学では講義に出席するもしないも自由です。講義を聞くも聞かないも自由。また、勉強することも、遊ぶことも、帰る時間も、お金の使い方も自由になりました。これだけ自由で刺激的な環境にいると、楽な方に流されてしまいうこともあります。しかし自由には責任が伴

います。自分の行動に対する責任を取らなければなりません。これは当たり前のことではあります。今まではこれほど「責任」を意識したことはありませんでした。大学生活一年目の前期を終え、責任が取れる範囲で自由に行動するという身を身につけられた気がします。

大学でできた友達には、日々良い刺激を与えてもらっています。みんなそれぞれの目標を持っており、夢をかなえるための努力と投資は怠りません。そんな姿にも日々刺激をもらいます。また、学生の数だけある考え方も、その見方に触れることはとても勉強になります。今までよりずっと広い視野を持つことが、大学に入って何よりよかったです。今後の大学生活をより充実したものにするように、毎日を大切に過ごしたいと思います。

大学に進学して思うこと

上村 健人

「ただ生きるのではなく、善く生きることこそ大切なのだ。」欲望のままにただ生きる人生に意味はない。生きていかに人生を善くするかが問題なのである。とソクラテス先生は「クリトン」の中で述べている。

人生の春休み、レジャーランドと揶揄される大学に入学して五ヶ月がたった。自分とその周りの友達を見てほしい。意味のない人生を送っていないだろうか。ソクラテスは「善とは何か」についての知が善く生きる行為を可能にする。望んでいるものを知っているながら、実現しようとしないうことはあり得ない。(知行同一)とも述べている。

私は、この知行同一が正しいとは思わない。長々と書いたけれど、私が大学に入学して思うこと、気づいたことは、自分を律することの難

しさと大切さだ。人間誰しも、苦痛を避け、快楽を求め、善く生きるため(目標のため)苦痛を厭わず、自分を律することが大切だと考える。

私は、津南中等教育学校六年の頃、受験という目標に向かって自分を律し、一生懸命がんばることができていた。ところが、今は周りの環境や周りの友人を理由に、自分を律することができず、苦痛を避け快楽を求めてしまいがちである。そんな自分を律しきれず、快楽に流されようとするとき、自分の夢、目標を思い、ゲーム機を置き、教科書を持ち、机に向かって座り直すことができる。

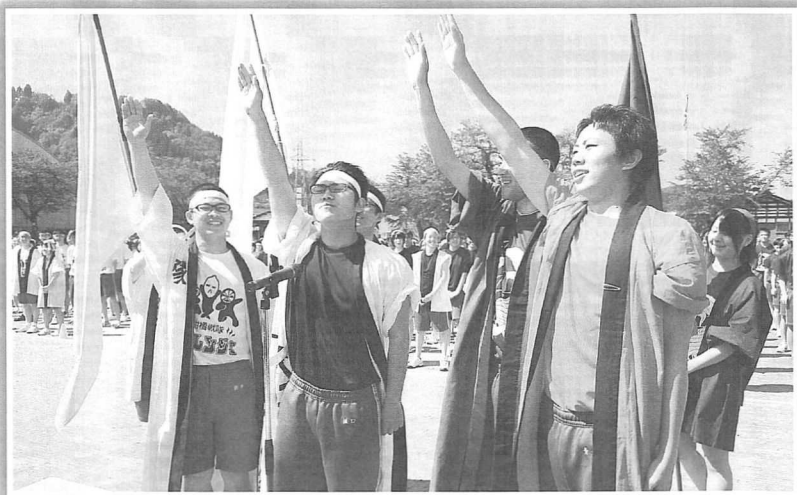
目標を失い、欲望のままに生きる大学生は少なくないと思う。目標を思い返してみてください。夢の実現のために。

平成24年度 体育祭と文化祭

例年6月に行っていた体育祭は、梅雨を考慮して5月に開催されました。また、これまでは赤・白の2連合のみでしたが、今年度は4連合でチームを組みました。そのため5年生からも応援リーダーを出すことになりました。競技では学年種目がなくなり、綱引きや玉入れなどの種目が増えました。当日は天気に恵まれ、さわやかな1日となりました。

文化祭は例年通り10月の最終土曜日に行われました。学習発表、作品展示、前期生の合唱、後期生のクラス企画等、見ごたえのある文化祭となりました。フィナーレでは窓から太陽の光が指す中で、全校生徒がシャボン玉を吹き飛ばし、きらきらとした光が体育館に満ち溢れました。中等生はもちろん来校者もきらきらとした笑顔になれるすばらしい文化祭でした。

同窓生の皆様も地元に戻られた際には、お立ち寄りください。お待ちしております。



部活動大会結果

陸上競技部

前期生

○中越地区大会

<男子>

400 m 第7位 58秒49 桑原 陸
 800 m 第8位 2分20秒24 桑原 陸
 走高跳 第5位 1m60 山田翔太
 四種競技 第3位 1997点 山田翔太
 砲丸投げ 第11位 9m28 丸山伊織

<女子>

走幅跳 第11位 4m40 小林美希乃
 200 m 第9位 28秒11 高橋真紀
 4×100mR 第5位 53秒30
 阿部祐理・高橋真紀・大熊京香・高橋実紀

○県大会

<男子>

第3位 四種競技 2155点 山田翔太
 第7位 800 m 2分9秒13 桑原 陸

○中越地区中学校駅伝大会

<男子>

13位 1:04.32 保坂実・栞原龍弥・

福原翔・柳旺志・小林大・桑原陸

<女子>

16位 51.18 柳依里・滋野すみれ・

岡村恵莉花・桑原遥・古澤千采希

後期生

○春季中越地区大会

<男子>

走高跳 第2位 1m85 風巻伊和里

<女子>

やり投 第6位 30m60 桑原春奈

○県総体

<男子>

走高跳 第6位 1m85 風巻伊和里

※北信越大会、インターハイ出場!

<女子>

やり投 第4位 36m33 桑原春奈

○秋季中越地区大会

<女子>

4×400mR 8位 4'40"36

山本ことも・市村望・斎喜希咲果・笹木紗利奏

走高跳 6位 1m30 高橋菜緒

やり投 2位 33m21 桑原春奈

○県選抜大会

<女子>

やり投 6位 31m41 桑原春奈

野球部

前期生

○都市大会

2回戦 津南中等 4-2 川西中

代表決定戦 津南中等 8-5 十日町南中

○都市新人戦

1回戦 津南中等 4-1 津南中

2回戦 津南中等 9-3 下条中

後期生

○春季県大会

1回戦 津南中等 5-4 新潟商業

決勝戦 津南中等 12-0 直江津中等教育学校

【7回コールド】

○春季北信越大会

準決勝 津南中等 0-10 富山第一

【5回コールド】

○第57回全国高等学校軟式野球選手権新潟県大会

代表決定戦 津南中等 11-7 新潟商業

○第57回全国高等学校軟式野球選手権北信越大会

準決勝 津南中等 3-5 富山第一

○秋季県大会

1回戦 津南中等 8-3 直江津中等

決勝戦 津南中等 2-1 安塚高校松之山分校

サッカー部

前期生

○都市大会

津南中等 0-3 塩沢中

津南中等 0-5 六日町中

津南中等 0-1 大和中

○都市新人戦

津南中等 0-5 六日町中

津南中等 0-1 塩沢中

津南中等 0-0 大和中

後期生

○春季中越地区大会

1回戦 津南中等 0-1 長岡農業高校

敗者戦1回戦 津南中等 3-1 小千谷西高校

敗者戦2回戦 津南中等 0-13 長岡大手高校

敗者戦3回戦 津南中等 0-2 長岡農業高校

○高校サッカー選手権大会新潟県予選

1回戦 津南中等 0-4 正徳館高校

卓球部

前期生

○都市大会

男子団体戦 津南中等 0-3 中条中

津南中等 0-3 下条中

女子団体戦 津南中等 0-3 川西中

津南中等 0-3 十日町中

女子シングルス 大口茉莉子 ベスト8

○都市新人戦

男子団体戦 津南中等 3-0 十日町中

津南中等 0-3 十日町南中

津南中等 3-0 津南中

リーグ2位通過

準々決勝 津南中等 3-0 中里中

準決勝 津南中等 0-3 中条中

3位決定戦 津南中等 0-3 下条中・

水沢中混合チーム ベスト4

女子団体戦 津南中等 2-2 十日町中

セットカウントにより負け

津南中等 0-3 十日町南中・

中里中

津南中等 0-3 川西中

後期生

○春季中越地区大会

男子団体戦 津南中等 0-3 正徳館高校

女子個人戦 中村優良 3回戦進出

(ベスト32、県大会出場)

バレーボール部

前期生

○都市新人戦

予選リーグ

1回戦 津南中等 0-2 十日町南中

3位決定戦 津南中等 2-0 中条中

決勝トーナメント

1回戦 津南中等 0-2 川西中

後期生

○春季中越地区大会

1回戦 津南中等 0-2 加茂高校

○県選手権大会

1回戦 津南中等 0-2 六日町高校

○秋季強化練習会

1回戦 津南中等 1-2 松代高校

吹奏楽部

前期生

○吹奏楽コンクール中越地区大会 中学校Bの部

金賞(代表)受賞

○吹奏楽コンクール県大会 中学校Bの部

銅賞受賞

後期生

○吹奏楽コンクール県大会 高等学校Bの部

銅賞受賞

その他、学校行事や地域での演奏活動を多数

行っています。

アート部

後期生

秋草学園短期大学文化表現学科主催第1回

創作コンクール 佳作 小林 未佳

その他、体育祭でのパネル作成や文化祭での

作品展、演劇発表等積極的に活動しています。

科学部

今年度より正式な部活動として発足しました。文化祭での津南万博では好評を博しました。普段から化学の実験や動物の観察等を行っています。

その他

3年 鈴木 賢さんの記録

○新潟県中学校総合体育大会水泳競技大会

男子100m背泳ぎ 1位 59秒47

県中新大会新 全国標準記録突破

男子200m背泳ぎ 1位 2分08秒08

県中新大会新 全国標準記録突破

○北信越中学校総合体育大会水泳競技大会

男子100m背泳ぎ 1位 58秒98

男子200m背泳ぎ 1位 2分07秒16

○全国中学校総合体育大会水泳競技大会

男子100m背泳ぎ 1位 58秒64

県中新

男子200m背泳ぎ 2位 2分05秒21

県中新

○ぎふ清流国体

少年男子B 100m背泳ぎ 4位 58秒91

新生活で気付かされたこと

石橋亮太

新生活が始まって五ヶ月が過ぎ、東京の荒波の中では様々なことに気付かされます。

私は寮生活をしているのですが、実家にいるときよりもかなり多くのストレスを抱えます。音楽の音が大きすぎていないか、迷惑をかけていないかといった、普段はそれほど気にしていないことにまで注意するようになりました。これらのストレスをうまく具合に取り除く方法を見つけることは、重要なことだと思います。

次に、地元以上に危険が隣に潜んでいることに気付かされます。地元が安全であるという点ではありませんが、新潟にいたときよりも危険だと感じたことがあります。某指名手配中の男が学校のすぐ目の前に潜伏していたことや、見ず知らずの人に声をかけられたことなど、今までは考えられないことが

起こります。また、トラブルに巻き込まれたとしても、親は近くにいません。自分の身は自分で守ることが大切だと、改めて考えさせられました。

そして最後に、家族の大切さに気付かされます。今までは親任せにしていたことを自分でやらねばなりません。買い出し、洗濯、アイロンがけなど、今でも慣れないこともありますが、すこしずつ良くなっていきます。まだまだ半人前な私ですが、いつかは自分が伝えるとのために努力を重ねていこうと思います。

自分の人生の中で新生活は始まったばかりです。ですが、この三つの大切なことに気付いて私はラッキーだと思います。社会人として最低限身につけておきたいことの三つだと思います。

大学に進学して思うこと

庭野健太

早いもので津南中等を卒業して半年が過ぎようとしています。今私は新潟大学農学部応用生物化学科で忙しい毎日を送っています。親元を離れて初めての一人暮らしということ

で何かと大変なことも多いですが、サークルや学部の仲間にも恵まれ、楽しい大学生活です。

応用生物化学科では1年生の時から化学・物理の分野が大変重要で、高校の授業を基礎にさらに発展的な内容を学びます。また、微生物学や食品化学などの専門的な分野も必修科目となっています。将来専門的な研究をするために欠かすことのできないものだと思います。高校時代にもう少し勉強しておけばと少々後悔しています。

サークルは生物関係団体に所属しています。

鳥、昆虫、植物の観察を中心にバドミントンや野球など様々な活動を行っています。新大には多くの部活やサークルがあり、先輩や他学部の人たちの交流の場となっています。

大学生活では何よりコミュニケーション能力が必要だと感じました。大学ではやろうと思えばたいのことは実現できます。しかし、自分から動かないと向こうからは何も提供してくれません。新大に入學して多くの人の考えを聞く機会がありました。それぞれが明確な目標を持っていて、そのような人に出会うことで今まで見えなかったものが見えるようになり新しい考え方ができるようになりました。恵まれた環境の中で、勉強だけでなく人間的にも大きく成長していければと

今、考えています。

新生活を振り返って

福原美優

四月に一人暮らしを始めてから、早約五ヶ月が経ちました。今までの生活から大きく変わり、何もかも一人でこなすことになり、慣れるまでは大変なこともありましたが、特に七月に夏バテしてしまっただけは、近くに住んでいる友達にとてもお世話になりました。

家事など家のことはもちろんですが、勉強にも力を入れました。私の選んだ看護学部は勉強量も多いです。授業についていくための学習時間の確保を優先しなくてはなりませんでしたが、中等で今までやってきた甲斐もあり、毎日数時間の勉強もあまり苦には感じませんでした。

一方、いい面もたくさんありました。今よりも自由な時間が増えたので、やりたいことに挑戦できるようになったことが大きいことです。サークルや、我慢していた趣味にも没

頭できる時間が増えました。とくにサークルはほかの学部の人や先輩との交流が増えまし、初めての経験もたくさんあり、とても充実しています。

先ほど書いたように、私が進んだのは看護系です。友人と遊んだりもしていますが、勉強に手を抜くことはできません。むしろ、今までよりもずっと大変だと感じています。国家試験を控えているので当然かもしれませんが、必修科目の数も、授業のコマも多いので中途半端な勉強ではついていきませんでした。特にテスト週間はとでも大変でしたが、やった分だけ成果も大きく、意欲も湧きました。

これからは現地実習も入り、必修科目も増えるのでますます大変になると思います。初めての経験を楽しみながら頑張りたいと思います。

大学進学という変化

小林洋祐

生まれてから十八年間、十日町市に暮らしてきた私にとって、大学進学に伴う自分の世界の変化は想像を絶しました。一学年三千人に昇る、東大という巨大な社会と、和敬塾という特殊な縦社会での寮生活に単身で踏み入った私は、とまどい、混乱し、自信を失い、正直この一学期はかなりきつかったといえます(勿論、楽しいことも沢山ありました)。

大学に行くこと心持ちも確かに変わります。上京するまで消極的な性格だった私には、知らないことがあまりに多く、できないこともあまりに多い。ですので、私はこの一年、いろんなものに手を出そうと思っています。先輩の皆さんはまだ中学生です。大学に入ったから、今より暇が無くなると思ってください。勉強でも遊びでも、興味のあることにかかわらず、思いつく限りいろいろなことに取り組みましょう。自分の将来について考えることも忘れずに。

生まれてから十八年間、十日町市に暮らしてきた私にとって、大学進学に伴う自分の世界の変化は想像を絶しました。一学年三千人に昇る、東大という巨大な社会と、和敬塾という特殊な縦社会での寮生活に単身で踏み入った私は、とまどい、混乱し、自信を失い、正直この一学期はかなりきつかったといえます(勿論、楽しいことも沢山ありました)。

大学に行くこと心持ちも確かに変わります。上京するまで消極的な性格だった私には、知らないことがあまりに多く、できないこともあまりに多い。ですので、私はこの一年、いろんなものに手を出そうと思っています。先輩の皆さんはまだ中学生です。大学に入ったから、今より暇が無くなると思ってください。勉強でも遊びでも、興味のあることにかかわらず、思いつく限りいろいろなことに取り組みましょう。自分の将来について考えることも忘れずに。

就職して思うこと

桑原 徳緒里

辺りが秋色に染まり始める九月も半ばだというのに、一向に涼しくなる気配が感じられませんが、思えば県内で一番暑い所に引越しました。まだまだ朝から太陽が照りつけます。

さて、四月二日の入社式から半年が経とうとしています。式当日は、三日程の研修も併せて行われました。その中では、社訓、時事問題、社会人としての基礎など様々な講義をたくさんの方から教わりました。まだまだ自覚のない身で受けましたが、学生と社会人の違いについて話し合った際の言葉、社会に与える影響の大きさ。それをいつも頭の片隅に置くようになっています。学生の頃は校内で済んでいた問題でも、企業では良くも悪くも直接社会に影響していきます。その三日間は、甘い考えを見つめ直すきっかけにすることができました。

伝えたい三つのこと

宮下 優

私が先輩の皆さんに伝えたいことは三つあります。一つは色々な経験をして欲しいということです。経験は人を作り、感性、価値観など考え方に影響します。皆さんには様々な経験をして多くのものや考え方に触れ、一つのことからではなく多面的な見方ができる人になってもらいたいと考えています。もちろん多数の意見、考え方に翻弄されるのではなく確固とした自分を持つことが一番大切で、多くの情報と考え方の中で、自分の芯を持ち、多くの情報、考え方を取捨選択できる人になって欲しいというのが伝えたいことの一つ目です。

二つ目は、努力は裏切らないということです。必ずしも報われることではないと思います。私には、努力すれば必ず最善の形で報われるとは考えていません。最善の形で報われるのが一番ですが報われなくても別の形で自分の糧になると考えています。努

かけにすることができました。就職してみても感じたこととしては、職種にもよると思いますが、年齢は関係ないということですね。入社する前は年の離れた人が大部分を占めると聞いていました。しかし、いざ目にしてみると、重役な役職を二十代の方がしていたり、ノルマ達成の上位には若い方の名前が並んでいたりします。また、秋から冬にかけて派遣社員の方がたくさん入りますが、仕事をこなしていくうちに(上からものを言う形になってしましますが)溶け込んで行く姿を見ると、なんだか嬉しくなります。お互いに成長していけたらと思います。ここからは余談になりますが、昼休みにいた

ただ漬け物やミニトマトのそれぞれの家庭の味に類が緩みます。

力して苦しんで涙を流した分、それに見合う結果がついてくると思います。今、自分が目標としているものを目指し自分を信じて努力を続けてください。これが伝えたいことの一つ目です。

三つ目は、常に謙虚で感謝の気持ちを持っていて欲しいということです。今、私や皆さんが毎日学校で勉強し生活できているのは多くの人に支えられているからです。勉強やスポーツで良い成績を収めることは多くの人の助けがあつてこそで、一人の力ではありません。一人では限界がありなかなかな物事はうまくいきません。自分は支えられているという意識を持って日々を過ごしてほしいということが伝えたいことの一つ目です。

この三つが今、私が先輩の皆さんに伝えたいことです。考え方は人により其々なので鵜呑みにする必要は勿論ありません。頭の片隅にでも置いていただければ幸いです。今しかできない学校生活を楽しんでください。

関東支部長から

ひとこと

高橋和志

この度関東支部長に任命いただきました。大学生活を始めてあっという間に半年がたちました。入学が決まった時はうれしさとこれから始まる大学生活への期待があつたのと同時に自分が大学生としてこれからしっかりとやっていけるのかという不安もありました。大学生活を始めてみると大学生は意外とやる事が多く、想像していたものとは違うなと思いつつもなんとかやっております。

一年目ということもあつて関東方面に進学をした卒業生はまだまだ多いとはいえません。ですが、これから先二期生・三期生が進路を決めていく中で関東方面への進学を視野に入れる人が増えていくだろうと思います。また、津南中等という学校は少し特別な環境で、中学・高校とずっと同じメンバーで過ごします。その分他の学校と比べると生徒同士の繋がりが強いのではないのでしょうか。

そこで関東支部長としては関東方面の卒業生同士で連絡を取り合つて親睦を深めていきその繋がりを保つことや、お互いに困った時は同じ出身校のよしみで助け合えるような雰囲気を作っていくことが重要だと思えます。今はまだ関東にいる卒業生は少ないですが、同窓会の活動を継続していくことで二期生・三期生さらにその下に続く皆さん方が安心して関東方面への進学を考えてくれるようになったらと思っています。

関東支部長としてまだまだ至らない点ばかりですが今後も精一杯取り組みますのでどうぞよろしくお願ひします。

